

平成23年度 都立工芸高等学校経営計画（全日制）

校長 松本光正

平成23年4月 校長決定

日本の工業・工芸・デザイン教育をリードする学校

1 目指す学校

本校は、明治40年の創立以来、工業・工芸・デザイン系の専門高校として多くの人材を輩出し、地域や企業、大学等から大きな信頼を得てきた。このよき伝統を継承しつつ、今後は、国際化や情報化の進展、科学技術の進歩、産業構造の変化等を踏まえ、更に「環境の21世紀」社会に対応した学校づくりを推進する必要がある。そのために、専門教育・産業教育の更なる充実を図るとともに、本校で得た専門的知識や技術を生かし、企業において即戦力として活躍できる人材や、大学等への進学にも対応できる確かな学力を身に付けた個性豊かな「スペシャリスト」を育成する学校を目指す。

- 自ら考える力や創造性、美的センスを育み個性・能力を伸ばさせる学校
- 高度な専門的知識・技術及び社会人としてのマナーを習得できる学校
- 進学に対応した学力の向上や資質・技能が習得でき、進学希望が実現できる学校
- 学校生活への満足度が高く、将来の夢を育む教育活動を推進する学校
- 東京における工芸・デザイン教育の中核を担う学校

2 中期的目標と方策

近年、都立高校において、デザインやクラフト等の学科の設置や教育課程に取り入れる学校が増えてきた。さらに、都立校の中にもデザインやクラフトを学習するなど、本校を取り巻く環境は厳しいものがある。本校が今後も、東京都の教育の中にあって工芸・デザインの中心校として存続するために、さらなる学校PRの活性化や入学してくる生徒の学習能力に応じたニーズに合った学校創りを推進する必要がある。

また、東京都教育委員会から指定された高大連携事業、人間国宝等日本の最高レベルの技術を持つ方による伝統・工芸の物づくり人材の育成事業などの専門高校としての使命をはたすとともに、工芸祭や卒業制作展を始めとする特色ある学校行事、部活動などを充実させることにより、本校の活性化に資するものとする。

(1) 生徒、保護者の満足度の高い学校

1) 学習指導について

わかる授業、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばす授業を進めるとともに、大学等への進学に対応した教育課程の充実をはかり、進学を希望する生徒のニーズに応えるようにする。また、優れた技術、知識を持つ専門家を市民講師に活用する他、大学講師による講習会を実施したり、各種展覧会の見学、校外授業等を実施したりして、学習の目的意識を明確化して、授業の満足度を高める。平成23年度から実施する学力向上推進事業について、各教科で生徒の基礎学力の向上を図るとともに、生徒一人ひとりの進路実現に向け、学習指導上の改善と工夫を図る。

2) 進路指導について

進路実現のため、1学年から計画的にキャリア教育を実施し、生徒の自己理解、自己啓発を促進する。

また、企業、大学との連携を強化し、積極的な進路開拓を図り、入学生から進路に関する情報、資料を生徒に提供して、将来への対応ができるようにする。また、生徒に自信と意欲を高めるため、資格取得指導を充実させ、企業見学、インターンシップ等の体験学習を拡充して、進路指導への満足度を高める。また、土曜講習を実施して、美大系、工学部デザイン系・建築系への家庭学習の習慣をつけさせる。

3) 生活指導について

自主・自律に基づく基本的な生活習慣の確立し、社会人としてのマナーを育成し、きめ細かな指導と統一した指導を推進するとともに、教育相談体制を構築し、充実させる。また、セーフティー教室、交通安全教育、薬物乱用防止教育等を通し生徒の規範意識を育成し、自他をいつくしみ、生命を大切にするなど、豊かな人間性や社会貢献の精神を育み、生活指導への満足度を高める。

4) 特別活動について

ホームルーム活動や工芸祭・卒業制作展等特色ある学校行事、部活動、生徒会活動を通して、成果をあげることによって特別活動の満足度を高める。

5) 学校生活への満足（健康づくり）

安全で健康的な学習・生活環境を提供するため、危機管理について意識を醸成し、危機管理体制の整備、訓練を実施して、学校生活の満足度を高める。

(2) 地域や企業、大学等の期待に応える学校

6) 地域行事への参加、文京区や地域の高校間連携を推進する。(地域交流等)

7) 地場産業を中心とする企業との連携を強化する。(進路指導)

8) 高大連携を推進し、学修成果の単位認定を推進する。(高大連携活動)

(3) 特色ある教育活動を推進する学校

9) 充実した施設・設備、都心に位置する地の利を生かした工芸・デザイン教育、情報関連教育を推進する。
(地域交流・広報活動)

10) 体験学習、各種公開講座を開講し、開かれた学校づくりを推進する。(広報活動)

11) 英語検定などの資格取得指導等とおして具体的に英語教育の充実をはかる。また、外国からの訪問団との交流を通して国際理解教育の推進を図る。(学習活動・国際理解教育)

12) 新教育課程の研究と今後の工程表を作成し、本校の将来構想を研究する。(学校経営・組織体制)

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

<学習指導>…分かりやすく、生徒の意欲関心を高め、実力アップにつながる授業を進める。

13) 今年度も二学期制を着実に実施し、授業時数の確保を通して学力の向上を保証する。

14) 生徒に発表の機会や体験的な授業を経験させ、生徒一人ひとりの学力向上に努める。

15) 生徒による授業評価、教員相互の研究授業等を行い、授業改善を推進して授業力の向上を図る。

16) ものづくりのプロフェッショナルを活用し、ものづくり人材の育成に取り組む。

17) 大学への進学等、生徒一人ひとりの進路実現を目指した教育課程の改善に取り組む。

<進路指導>…進路未決定者をなくし、第一希望の進路実現を図る

18) 進路決定に向け、資格・検定講座、進学対策講座、プレゼン講習会、デッサン講習を実施する。

19) 土曜講習、長期休業日中の進学対策講座を計画的に実施する。

20) 3年間を見通したキャリア教育を推進する。

21) 生徒及び保護者向け進路ガイダンスの充実を図る。

22) 進路資料・情報の提供と進路室を活用した個別進路相談の推進を図る。

23) 高大連携事業等、校外の学習成果の単位認定を行う。

24) 企業訪問を実施し、求人開拓とインターンシップ受入企業の拡大を図る。

<生活指導>…集団における規範意識と社会性の育成を図る

25) 社会や学校生活のルール・マナー、身だしなみの指導を図る。

26) 校内美化への意欲と態度を喚起し、具体的な美化活動を通じて良い教育環境を作る。

27) 学級担任、生徒指導部等の連携を強化し、生徒の学校生活における悩み相談に対処する。

<特別活動>…生徒の自主・自律活動を通じて健全な人格形成を図り、帰属意識を高める

28) 部活動への参加を勧め、学業との両立を図る。

29) 文化祭、卒業制作展等の特色ある学校行事を充実させる。

30) 各種コンクール、コンテスト等への参加を奨励する。

31) 生徒の表彰制度を作り、善行や意欲、学校生活のあらゆる分野で成果のある生徒を表彰する。

32) 図書館を有効に活用するとともに、ものの見方・考え方を養うため読書活動を推進する。

<健康づくり>…生徒の健康への関心を高め、健康づくりに取り組む

33) 生徒の状況を的確に把握し、「心の悩み」相談の充実を図り、外部機関を効果的に活用する。

34) 交通安全、薬物乱用防止等のセーフティー教室を実施する。

35) 今年度から全校生徒に体力テストを実施し、体力向上を推進する。

<募集・広報活動>…工芸の良さや特色を中学生、都民にアピールし理解と信頼を深める

36) 情報の即時発信のためにホームページを適時に更新し、充実させる。

37) 中学校への出前授業と本校での体験学習を実施するとともに、中学生対象の「夢コンペ」を充実させる。

38) 授業公開・学校説明会・個別相談会を充実させ、中学生の状況にあった時期に実施する。

39) 本校のPR資料を作成し、中学校宛に送付するとともに、生徒による出身中学校訪問を実施する。

40) 全教職員が協力し、学校PR活動を充実させる。

41) デザイン・芸術系の都立学校との連携を進め、共同した広報活動の検討と実践を試みる。

<学校経営組織体制>…教職員の協働による学校経営を推進する

42) 生徒による授業評価の活用及び教科・校内研修体制を充実する。

43) 設備拠点校としてグループ実習の推進と条件整備を行う。

44) 学習指導要領の改訂を見据え、生徒の希望する進路を保証する事ができる学校づくりを目指し、将来構想プロジェクト委員会を核に、将来構想の検討、プロジェクトの企画・立案を行う。

45) 経営企画型事務室として経営的視点に立った経営計画の策定・執行にあたる。

- 46) 学校開放事業を推進し、中学校との連携を進め、地域に開かれた学校づくりを目指す。
- 47) OJTなど、教員自らが常に向上する研修を行う。
- 48) 教員自らがアイデアを自己申告等を通して提言し、学校経営、学習指導等を活性化する。

(2) 重点目標と方策

- ① 入試応募倍率の確保：中学校訪問や出前授業、夏休み体験教室・工作スタジオやものづくりフェア、学校説明会・授業公開等の機会を最大限活用し中学生の工芸・デザインに関する興味・関心を高め応募倍率の定着を図る。

数値目標： 推薦入試3.0倍以上（過去三年間平均4.15倍） 一次入試1.5倍以上（昨年1.5倍）

- ② 生徒満足度の向上：生徒による授業評価や学校運営連絡協議会・学校評価アンケートの結果を基に、授業改善や分掌活動の見直しを行うとともに各種行事の更なる活性化を図り、各生徒満足度を達成する。

数値目標： 授業満足度75%以上（昨年度：77%） 学校生活満足度90%以上（昨年度89%）

- ③ 高大連携・高度技能者の活用の推進：高大連携を活用し、専門教育の特色化を推進するとともに、各科の専門性を生かした新たな高大連携の構築に努め教育内容の充実を図る。また、人間国宝等特別な技能を持つ技術者を活用する。

数値目標： 大学での出張授業参加300名以上（昨年度延べ380名）、高度技術者の活用 200時間以上

- ④ 大学の現役合格率の向上：進学希望者に対するキャリア教育を推進するとともに、土曜講習及び長期休業日中の進学対策講座やデッサン講習会等の支援対策の充実を図り、4年生大学の現役合格率を保証する。

数値目標： 4年生大学現役合格率 80%程度（昨年度85%）

- ⑤ 進路未決定者の解消：担任や進路指導部及び各科との連携の充実を図り、丁寧できめの細かいキャリア教育を推進する。

数値目標： 就職希望者の就職決定率100%（昨年度97%） 進路未決定者5名以内（昨年度3名）